

通期で増益の上方修正も、 リニア建設の予定収入には達せず！

第2四半期決算経営協議会

11月1日、本部は2011年度第2四半期決算の経営協議会を開催し、会社から、「震災直後の大幅な減収から次第に回復し今期（7～9月）は昨年同期と比べ増収となったが、依然期間（第2四半期）全体では減収となっている。しかし足元の新幹線の輸送が延び、また、来3月期の増（今年は震災があった）や閏年であることなどから、通期の予想としては、営業収入は昨年に及ばないものの、経常利益と純利益については昨年を上回る見込みである」と2011年度第2四半期の決算について説明を受けました。さらに、リニア中央新幹線について、現時点における進捗状況の若干の説明もありました。

本部から淵上委員長が、①決算の内容について、③リニア中央新幹線の建設について、③リニア中央新幹線の説明会について、④高速プロジェクトの進捗状況について、⑤組合事務所の便宜供与の5項目について質問し若干の議論を行いました。

特に、「3年も続けてリニアを建設するための収益（単体11960億円）に達していない。にもかかわらずリニアの建設に向けて準備が進められている。方針が変わったのか」との質問に対して、会社は「金額はあくまでも目安であり、建設については健全な経営をベースとして中長期的なスパンで考えている。経営が厳しいときには期間の延長もありうる」と、何のために目安の金額を明示しているのかあやふやな回答に終始しました。また、依然として組合事務所を便宜供与しないことについては、現在工事をしているところがあったとしても、「組合事務所をそれとして作る気はない」と、労働組合を大切にしようとしなない労使関係軽視の姿勢を示しました。